

1. 破傷風[Tetanus]

破傷風は世界中の土壌に存在し傷口から感染する

昭和43年以前生まれは、1ヵ月間隔で2回接種し、約1年後(6ヶ月~2年)に1回の追加接種をする。10年間有効

昭和44年4月以降の生まれの方は小児期に破傷風ワクチンを接種しておりDPT(ジフテリア:Diphtheria、百日咳: Pertussis、破傷風: Tetanus)又はDTで1回追加接種する。

10年は有効で、その後1回追加で更に10年効果は延長する。

近年の百日咳の流行を考えるとDPT接種がお勧め。現在国産のDPTは生産中止となっているため希望される方は輸入Tdap(成人用三種混合ワクチン)にて当院では対応

2. A型肝炎[Hepatitis type-A、Hep-A]

A型肝炎は食べ物から感染する病気でアジア、アフリカ、中南米に広く存在する

2~4週間隔で2回接種し、6ヵ月後(3ヶ月~2年)に追加接種する

2回接種で約2年、3回で約5~10年間有効

短期間の出張や旅行では1回で出発し、帰国後続きの接種をする

3. B型肝炎[Hepatitis type-B、Hep-B]

B型肝炎は主に血液を介しての感染であるが唾液、体液からの感染もありアジアを中心に広く存在する。発展途上国に長期滞在する場合は接種を推奨

4週間間隔で2回接種し、6ヵ月後(3ヶ月~2年)で追加接種する。3回接種で5~10年間は有効

4. 日本脳炎[Japanese Encephalitis]

日本脳炎は、日本脳炎ウイルスを保有する蚊に刺されることによって起こる重篤な急性脳炎で死亡率が高く後遺症を残すことも多い。アジア地域(西はインド、東はパプアニューギニア)では必要小児期の1期分の接種(3~4歳での3回の基礎免疫)があれば20~35歳までは1回追加、35歳以上は2回追加接種する

小児期の接種が未接種または不明の場合は、1~4週間隔で2回接種し約1年後(半年~2年後)に追加接種すれば5~10年は有効である

5. 狂犬病[Rabies]

2~4週間隔で2回接種し、6ヵ月以降に1回の追加接種する

輸入ワクチンを用いて、WHO方式(0-7-21または28日)で出発までに3回の接種を行うこともできる
詳細は別紙参照

6. ポリオ、小児麻痺、急性灰白質炎[Polio Myelitis、OPV(oral Polio、Sabin)、IPV(Salk、Sabin)]

ポリオはポリオウイルスによって急性の麻痺が起こる病気

アフリカ、中近東、南西アジアでは接種を推奨

昭和50年~52年生まれの方は小児期にワクチン接種しているが免疫が低いので追加接種が必要

現在日本では不活化ポリオ(IPV)にて接種

7. 黄熱[Yellow Fever]

アフリカや南米の一部の国で必要。入国10日前にまでに接種し10年は有効

中部空港(セントレア)検疫所支所(0569-38-8205:火・金曜日 13:00~)で接種できる

(※事前に予約が必要です)

8. 腸チフス[typhoid fever]

腸チフスは食べ物から感染する病気で、アジア、東欧、中東、アフリカ、中南米などで流行している

国内で承認されているワクチンが無いため、輸入ワクチンで当院では対応

出発2週間以上前に1回接種。2~3年は効果あり

9. 髄膜炎菌[meningococcal meningitis]

髄膜炎菌による髄膜炎(髄膜炎菌性髄膜炎)は世界中どこでも流行するが、アフリカ(サハラ砂漠の南方)で流行がある。サウジアラビアではメッカ巡礼の入国の際に接種が義務づけられている

1回接種。現在は国内で手に入れることができないため、輸入ワクチンで当院では対応

10. 麻疹(はしか)[Measles]・風疹[Rubella]・おたふくかぜ[Mumps]・水痘(水ぼうそう)[Varicella、Chickenpox]

アジアでの麻疹の流行など、国内外で流行がみられる。感染を防ぐには検査をして、抗体が陰性のものはワクチン接種が有効。